

52) タマアセタケ (小林)。全体淡黄色, 孢子球形。外観はキイロアセタケ *Inocybe lutea* Kobayasi et Hongo に類似している。農林省林業試験場浅川分室の実験林で採つた。

53) トガリウラベニタケ (新種)。キイボカサタケ *Rhodophylius murraiae* (B. et C.) Sing., アカイボカサタケ *R. salmoneus* (PK.) Sing., ソライロタケ *R. aeruginosus* (Hiroe) Hongo などと近縁の種類で, いずれも傘は円錐形をなし頂端にとがつた小突起を有し, 茎は細長く少しくねじれ, 又孢子はほぼ六面体状をなしている。本種は大津市石山平津町にてササ類の間に発生する。

54) エイザンモミウラモドキ (新種)。外観 *Mycena* 属の菌に類似せる小菌で, ひだは灰色をなしその縁部に多数の紡錘体をそなえているのが特徴である。比叡山麓の日吉(ひえ)神社境内にて, 蘚類の間に発生していた。

55) ニオイベニハツ (新称)。大津市石山平津町におけるアカマツ林で採集した。

本研究の一部は文部省科学研究助成補助金によつたものである。

○シロガネスマレ(新称)(檜山庫三・福原義春) Kōzō HIYAMA & Yoshiharu FUKUHARA: White-flowered *Viola mandshurica*

日本のスマレ類の白花品については既に幾つか報告されているが, スマレの白花品もその一つであつて, これは諸所で時々発見されているにも拘らず, アリアケスマレ(シロバナスマレ)等の別の種類と混同視されてきたためでもあろうか, これまで終いに記載もされず来たようである。そこで, ここにこの者の記載を発表しておきたい。命名に用いた材料は曾て長谷川仁氏が東京芝の旧白金御料地で採集されたものを福原が現在栽培しているものの中から選んだ。この標本は花弁が幾分狭くて長い個体であるが, これは常品のスマレにも見られることである。和名は元の採集地に因んで白金スマレとしたが, これには白花の意味も含ませたつもりである。学名は次の如く定める。

*Viola mandshurica* W. Becker var. *mandshurica* forma **Hasegawae** Hiyama, nov. f.

*Flores albi, petala violaceo-nervata. Cetera ut in f. ciliata.*—Nom. Jap. Shirogane-sumire, nov.

Hab. Hondo: Tokyo, cult. (Y. Fukuahara—Apr., 1956—typus in herb. Nation Sci. Mus. Tokyo).